



震災で家や塾を流された子どもたちに、学びの場を
岩手県大槌町で、放課後学校「大槌臨学舎」が開校
開校式（1月23日18時より）実施のご案内

特定非営利活動法人 NPO カタリバ（東京都杉並区、代表理事 今村久美）はこの度、岩手県内で初となる被災地の放課後学校“コラボ・スクール”「大槌臨学舎（おおつちりんがくしゃ）」を開校いたします。

この度の開校に際しては、まず受験生である中学3年生を対象にし、今春に控えた高校受験の合格に重点を置いた学力向上を目指します。震災による津波で自宅や学習塾が流されるなど、落ち着いて勉強する場所を失った子どもたちに進学の路が閉ざされることのないようにするのが狙いです。今後、施設用地その他の準備が整い次第、対象を小学生、その他の中学生および高校生に順次、拡大していく予定です。

つきましては、「大槌臨学舎」開校式を18時より、大槌町役場中央公民館3F大会議室にて実施いたしますので、是非ご検討いただき、ご出席を賜りますようお願い申し上げます。開校式詳細は添付資料をご覧ください。

国内外からの寄付で、継続的な支援を実施

NPO カタリバはこれまで、宮城県女川町において仮設住宅で暮らす子どもたちなどを対象としてコラボ・スクール「女川向学館」を運営してきました。この度、バンクオブアメリカ・メリルリンチ様（Give2Asia 財団様を通じて）、新日本有限責任監査法人様の2社からご支援を頂き、2校目のコラボ・スクール（岩手県内では初）となる大槌臨学舎を開校する運びとなりました。

メリルリンチ日本証券株式会社代表取締役社長 瀬口二郎氏は、「弊社もわが国の一企業市民として、これまで様々な形で出来る限りの復興支援のお手伝いをして参りましたが、この度その一環として、被災地の子どもたちに勉強の場を提供する活動のサポートをさせて頂くことと致しました。私どもは、次世代を担う子どもたちの教育の問題は、被災地のご家族にとって喫緊かつ重大な問題であると認識しており、カタリバの本活動がこのような被災地のニーズに沿う形で、中長期にわたり着実な成果を挙げて行くものと確信しております。」と述べられています。

「女川向学館」を含めたコラボ・スクールは、日本財団様を設置団体としてチャンス・フォー・チルドレン様、トイボックス様、フローレンス様、NPO カタリバの5団体が共同で行う「ハタチ基金」の支援事業です。同スクール全体の費用はハタチ基金に加え、サッポログループ様（ハタチ基金を通じて）、東日本大震災復興支援財団様、バーバリー基金様など国内外の法人・個人の皆様からのご寄付で賄っています。

本件に関する問合せ先

特定非営利活動法人 NPO カタリバ / E-mail: pr-tohoku@katariba.net

- ・東京事務所：高山・山内（03-5327-5667、東京都杉並区高円寺南3-66-3）
- ・大槌臨学舎：川井（080-1805-4169、上閉伊郡大槌町上町2-16 上町ふれあいセンター内）

住居倒壊率 3 位、震災で壊滅的な被害を受けた大槌町

岩手県大槌町は、東日本大震災による津波と火災で壊滅的な被害を受けた、三陸沿岸の町です。全人口 12619 人のうち死者・行方不明者は合わせて 1307 人。住居倒壊率は 64.6%と被災地で 3 番目に高く、町庁舎も津波で崩壊しました。震災による子どもたちの教育への影響を調べた「大槌町の教育状況調査」（日本フィランソロピー協会様提供）によると、「仮設住宅内での勉強は集中しづらく、スペースの確保や学習机など子どもたちへの学習支援が必要」。同じ学校の友達がバラバラの仮設住宅に入居して、級友との接点が喪失したため、「放課後の居場所作り」も望まれています。家庭の経済状況や交通機関の悪化により、進学をあきらめる生徒が出ることも予想されています。

津波で、家や塾を流された子どもたちのために

震災で自宅や塾を流され、学習環境が悪化した子どもたちの“学力低下”が問題になるなか、NPO カタリバは「ハタチ基金」の支援事業として、放課後学校「コラボ・スクール」を設立。第 1 校目の「女川向学館」（宮城県女川町）では、2011 年 7 月から小中高生約 230 人に学習指導を行ってきました。上述の調査をもとに、続いて学習支援の必要性が高い地域として候補にあがった大槌町で、「大槌臨学舎」を設立しました。同校は、大槌町教育委員会などの後援を得て、11 年 12 月から仮開校。既に中学 3 年生を対象に授業を開始しています。「学力向上」および「子どもたちの居場所に」をコンセプトに、英語や数学などの学習を指導。準備が整い次第、小中高生にも指導対象を広げる予定です。



女川向学館での授業

photo by yasuko furukawa

10 年後の日本に、イノベーションを起こす人材を育成

「臨学舎」（りんがくしゃ）という名前は、江戸時代に大槌町に存在した寺子屋「臨生堂」から一字借りています。この「臨」は、「向き合う」という意味を持ちます。「学びに向き合う」「今の自分に向き合う」そして、「震災に向き合う」ことができる、強い子どもたちに育ててほしいという想いを込めて、大槌町教育委員会の伊藤教育長が名づけました。コラボ・スクールでは、「震災という苦しく辛い試練を乗り越えた子は、誰よりも強く優しくなれるはず」という理念を掲げています。震災の経験を、“悲しみ”から“強さ”に変える「学習機会」を提供することで、10 年後の日本にイノベーションを起こしてくれる人材を、東北の地から輩出することを目指します。



大槌臨学舎で自習する受験生

〈ご参考〉 コラボ・スクール <http://www.collabo-school.net/>

ハタチ基金 <http://www.hatachikikin.com/> NPO カタリバ <http://www.katariba.net/>

本件に関する問合せ先

特定非営利活動法人 NPO カタリバ / E-mail: pr-tohoku@katariba.net

- ・東京事務所：高山・山内 （03-5327-5667、東京都杉並区高円寺南 3-66-3）
- ・大槌臨学舎：川井 （080-1805-4169、上閉伊郡大槌町上町 2-16 上町ふれあいセンター内）

〈 大槌臨学舎「開校式」のご案内 〉

コラボ・スクール「大槌臨学舎」の本開校を記念して、開校式を開催いたします。
開校式は、関係者のほか報道関係者の皆様にも公開いたします。

◆日 時：2012年1月23日（月） 18:00～19:30

◆場 所：大槌町役場 中央公民館 3F大会議室
(〒028-1121 岩手県上閉伊郡大槌町小槌第32地割126)

◆出席者：

大槌町教育委員会教育長 伊藤正治様、メリルリンチ日本証券株式会社代表取締役会長 中山恒博様
岩手県教育委員会、大槌町内中学校 校長、大槌臨学舎 生徒・保護者・講師、
特定非営利活動法人NPOカタリバ 代表理事 今村久美

◆式次第：

1. 開会の挨拶と「大槌臨学舎」の設立意義の説明 (NPOカタリバ 今村)
2. ご挨拶 (大槌町教育委員会 伊藤教育長)
3. ご挨拶 (メリルリンチ日本証券 中山会長)
4. 震災直後の被災地で作られた歌「歩きましょう」披露 (大槌出身のアーティスト・ノリゲさま)
5. 将来への「約束」(決意表明)の記入 (大槌臨学舎 生徒一同)
6. 「約束」の宣言 (大槌臨学舎 生徒代表)
7. 閉会のご挨拶 (NPOカタリバ 今村)

是非ご検討いただき、ご出席を賜りますようお願い申し上げます。大槌臨学舎の概要は以下となります。

- ・開校時間：週6日（月曜のみ休校）
- ・所在地：上町ふれあいセンター/吉里吉里中学校
もしくは吉祥寺（岩手県大槌町）
- ・講師：地元塾講師2名、職員、ボランティアスタッフ
- ・生徒：大槌町の中学3年生 約85人
(準備が整い次第、小中高生を対象を広げる予定)
- ・科目：英語・数学を中心に5科目
- ・後援：大槌町教育委員会・岩手県教育委員会・
岩手大学・岩手県立大学
- ・主催：特定非営利活動法人NPOカタリバ

アクセス

・自動車

東北自動車道東和ICより
約3時間（東京から約8時間）

・公共交通機関

JR釜石駅下車、バスで30分
（東京から約6時間）

岩手県大槌町



※式終了後、生徒や先生に個別にインタビューを行いたい場合には、事前にご連絡ください。対応させていただきます。

生徒の感想例：「これまで勉強できなかった分を取り返したい」「ここで集中して勉強して、消防士になる夢を叶えたい」「(避難所で働く看護師の姿を見て) 将来は私も看護師になりたい」など

ご出欠・当日の連絡先 特定非営利活動法人NPOカタリバ 大槌臨学舎

TEL：080-1805-4169（担当：川井） / 090-6146-3726（担当：金森）

E-mail：pr-tohoku@katariba.net